

平成28年度 大倉山記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画			実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価	
1 文化芸術の鑑賞、創作活動の機会の提供及び地域コミュニティの形成・社会的包摂(ソーシャルインクルージョン)を推進します。	1 施設の特性を活かした事業や地域と一体となった事業展開	●オープンヘリテージ ①年1回実施(11~12月) ②WEBサイトやSNS等での自主的な発信 ③来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①年1回実施 ②3件以上 ③72%以上	①年2回実施 ②3件 ③99%	A B A	・「オープンデイ」として館独自に実施。	【成果】 ・前年からの継続発展事業について、実行委員会代表の方々などと連携を図り、前年までの経緯を確認の上、目標件数を全て実施した。 ・新規事業の企画にあたっては、利用者からのご意見を拝聴しながら組立て、実施した。季節のフラワーアレンジメント教室では、6回を通じて満足度100%と、好評を得た。	【評価できる点】 ・観梅会の開催時に合わせ、テーマに沿った装飾や教室を開催するなど、公園とのコラボレーション企画を実施しました。目標来館者数300名のところ、実績1,583名と大幅に上回り、花の芸術に接する機会を設け、利用者同士の繋ぎ手となった点を評価します。 ・子育て支援プロジェクトの立ち上げ、運営においては、『のんびるフェスタ』を新規に開催でき、次年度へつなげることができた。 記念館の魅力を多くの親子連れに伝えることができた。
		●観梅会開催時の館内梅装飾 ①年1回実施(2~3月) ②WEBサイトやSNS等での自主的な発信 ③観梅会開催日の当館来館者数	①実施 ②3件以上 ③300名以上	①実施 ②3件 ③1,583名	B A A			
		●イルミネーション&ライトアップ ①年1回実施(12~1月) ②WEBサイトやSNS等での自主的な発信 ③ライトアップ観覧者総数	①実施 ②3件以上 ③1,000名以上	①実施 ②3件 ③7,984名	B B A			
	2 出張事業(アウトリーチ)を積極的に実施	●横浜芸術文化プラットフォームへの参画 ○学校プログラムの実施	年3校以上	年3校	B		【改善が必要と考えられる点】 ・一部実績に定性評価のみとなってしまう事業があるため、企画・事業に対する評価が適切に公正にできるよう、定量的な実績を残し、実績の見える化を図ることで、今後の運営に活かすことを期待します。	
	3 現在実施している事業の継続・発展を進める	●第11・12回室内楽シリーズ ①年2回実施(7月・1月) ②WEBサイトやSNS等での自主的な発信 ③来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①年2回実施 ②3件以上 ③72%以上	①年1回実施 ②2件 ③99%	C C A	・予定していた楽団の申出により1回開催とし、1回は落語に内容変更。		
		●大倉山記念館・第6回高校生ギャラリー&ミュージックフェスタ ①年1回実施(1月) ②WEBサイトやSNS等での自主的な発信 ③来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①実施 ②3件以上 ③72%以上	①年1回実施 ②3件 ③93%	B B A			
		●第5回大倉山記念館「落語会」 ①年1回開催(12月) ②WEBサイトやSNS等での自主的な発信 ③来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①年1回開催 ②3件以上 ③72%以上	①年2回開催 ②3件 ③97%	A B A			
	4 子育て支援プロジェクトの立ち上げ、運営	●第3回こども映画祭 ①年1回実施(12月) ②WEBサイトやSNS等での自主的な発信 ③来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①実施 ②3件以上 ③72%以上	①内容変更1回実施 ②3件 ③100%	B B A	・全館を活用した親子イベント「のんびるフェスタ」開催に内容変更。		
	5 地域の若手アーティストや新しい大倉山ブランドの育成・発信	●第5回白山高校美術コース作品展 ①年1回実施(8月) ②来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①実施 ②72%以上	①実施 ②定性評価のみ実施	B -			
	6 横浜市の「先進的な文化芸術」と「地域の文化芸術」の接点を創る	●トリエンナーレ学校の開催誘致 □年1回実施(3月)	実施	実施	B			
	7 文化芸術活動に関わりたい方と発信したい方をつなぐ	●文化芸術活動の支援講座 ①年5回以上開催(5月~) ②WEBサイトやSNS等での自主的な発信	①年5回以上開催 ②3件以上	①5回実施 ②3件	B B	・開催時期の調整のためトリエンナーレ応援プログラムに内容変更。		
●サークルラウンジの開設 利用状況を把握しながら、段階的に実施 □通年(5月~)		実施	実施	B				
8 定期開催事業や長期事業を展開し、教養や文化の向上とリピーター化を推進	●第6回大倉山記念館「ワークショップ」(Artsワークショップ) 「初めての楽器体験」 ①年1回(教室回数6回)実施(5~6月) ②WEBサイトやSNS等での自主的な発信 ③来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①実施 ②3件以上 ③72%以上	①実施 ②5件 ③100%	B A A	・ウクレレ教室を開催。その後もサークルラウンジや「教えて！まちのせんせい」などの主催事業にて活動を継続実施。			
9 積極的な市民交流を促進	●大倉山スタンプラリー ①実施 ②WEBサイトやSNS等での自主的な発信	①年1回以上実施 ②3件以上	①年2回実施 ②3件	A B				
10 大倉山地域の文化を発信、交流する場を開く	●第10回大倉山スプリングジャズフェスタ ①年1回実施(2~3月) ②WEBサイトやSNS等での自主的な発信 ③来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①年1回実施 ②3件以上 ③72%以上	①年1回実施 ②3件 ③100%	B B A	・主催者側のご意向によりアンケート未実施。			
	●第3回ふるさと港北子ども美術展 ①年1回実施(8月) ②WEBサイトやSNS等での自主的な発信 ③来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①実施 ②3件以上 ③72%	①実施 ②3件 ③定性評価のみ実施	B B -				
	●第3回国際学生交流会(ハーバード) ①年1回実施(6月) ②来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①実施 ②72%以上	①実施 ②定性評価のみ実施	B -				
11 強みやノウハウを最大限活かす	●季節のフラワーアレンジメント教室 ①年6回以上開催(4月~) ②WEBサイトやSNS等での自主的な発信 ③来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①年6回以上開催 ②3件以上 ③72%以上	①年6回開催 ②3件 ③100%	B B A				
	●大倉山寄り道コンサート《大倉山サロン》 ①年4回以上開催(9月~) ②WEBサイトやSNS等での自主的な発信 ③来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①年4回以上開催 ②3件以上 ③72%以上	①年5回開催 ②3件 ③99%	A B A				

平成28年度 大倉山記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

2 市民協働、市民主体の活動の支援、地域人財育成及び文化的コモンズ形成を牽引します。	12	地域住民や町内会、学校、近隣施設等との積極的な協働を推進する	●ボランティア養成講座検討会 □検討会開催:年1回以上	年1回以上開催	年1回開催	B	【成果】 ・今年度の事業を通じ、どのようなボランティアが求められているかを、方向性の検討材料を得られた。 ・継続発展の共催事業を全件実施し、各共催団体との協力関係を構築した。各共催事業を通じた館の運営や備品、設備に対するご意見を都度拝聴、協議し、運営に反映させた。また、一部共催団体の中で代表者交代の動きがあった中、円滑な移行となるよう、館として支援した。ジョイフルコンサート、大倉山講演会、小さな丘のメリークリスマスなど、各共催事業で目標を超えた満足度を得た。 ・港北区役所との連携のもと、おしえて！まちの先生を実施し、参加者に各プログラムを体験していただいた。まちの先生の紹介や、記念館の集客の紹介の機会となり、参加者からは満足度100%の高評価を得た。また、一部のまちの先生の、その後の記念館での活動の継続へと繋がった。 【課題】 ・次年度に向け、共催団体の構成に変化があることが予想される。館として、事業の実施に対し、地域のボランティアの方々が動きやすいことを第一に、引き続き協力していく。 ・ボランティアについては、コンシェルジュの実施、館内ツアー実施を通じて、記念館紹介の需要がまだまだ多いことが確認された。そのため、スタッフだけでなく、そうした需要にお応えできるボランティアの育成に、長期的課題として取り組む。 ・初年度は、周辺施設との繋がりは徐々にできつつある中、催事の際の連携などはまだできていない。施設連携の取り組みを強化し、利用者の利便性が向上するサービスを検討する。	
	13	既存の協働の継続と新たな事業展開により、今まで以上に協働を活性化させ、協働と交流の輪を広げる	●大倉山公園愛護会の活動への協力 ①大倉山公園愛護会による花の苗植え活動の継続と発展 植え付けおよびお手入れ活動 ②花のタネの配布 ●第21～26回大倉山ジョイフルコンサート ①年6回実施(28年5月・7月・9月・11月/29年1月・3月) ②来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①年4回以上実施 ②年1回実施	①年9回実施 ②年1回実施	A B		
	14	運営方法や事業の実施効果の検証に皆様の声を取り入れる	●大倉山ミーティング(利用者懇談会)の開催 □年2回以上開催	年2回以上開催	年2回開催	B		
	15	大倉精神文化研究所や大倉山公園をはじめ、近隣施設・地域団体等とのネットワーク構築につとめ、文化的コモンズの形成に進めるとともに、文化芸術活動を通じた地域連携活動を展開する	●第6回おしえて！まちの先生提供します。 ①年1回実施(1月) ②WEBサイトやSNS等での自主的な発信 ③来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計 ○大倉山講演会 ①年4回実施(4～7月) ②来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計 ○第32回小さな丘のメリークリスマス ①年1回実施(12月) ②来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①年1回以上実施 ②3件以上 ③72%以上	①年1回実施 ②3件 ③100%	B B A		
	16	人材育成活動に積極的に取り組む	●文化芸術活動団体の施設WEBサイトでの紹介 利用頻度の高い施設や地域で活動する団体を中心に段階的に展開 □紹介団体:3団体以上	3団体以上	16団体	A		
	17	文化芸術の専門的な知見と経験を有するとともに、地域の多様な主体とネットワークを築く専門性と、コーディネート能力を持った人材によって文化的コモンズの形成を牽引する	○第32回大倉山秋の芸術祭(11月) ①年1回実施(11月) ②来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①年1回以上実施 ②72%以上	①年1回実施 ②80%	B A		
	18	施設と地域が培ってきたものを継承しながら、資源やネットワークをさらに活かし、時代に適した、これからの地域文化拠点として相応しい施設を目指す	○第32回大倉山こどもフェスティバル ①年1回実施(5月) ②来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計 ○第10回大倉山ドキュメンタリー映画祭 ①年1回実施(3月) ②来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①年1回以上実施 ②72%以上	①年1回実施 ②97%	B A		
	19	文化的コモンズ形成のために、文化施設として求められる専門性と、地域の顔として求められる多様な役割を両立するため、この役割を担う多様なコーディネーターを育成し、協働を推進	○市内の他の文化施設や文化団体等との連携事業 ①年1回以上(10月～) ②来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①年1回以上実施 ②72%以上	①年3回実施 ②ヒアリングのみ実施	A -		
	3 建築物としての保存、管理及び価値の普及並びに市民の円滑な施設利用の促進を図ります。	20	施設の価値と保全の必要性を体感・体験できるイベントや事業の実施	●ガイドツアー (1)施設見学プログラムの実施 ①施設見学ツアー参加:希望校に対応 (2)観梅会や大倉山オープンヘリテージなどの市内イベント開催時のガイドツアー ②年12回開催 ③WEBサイトやSNS等での自主的な発信 ④来場者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①希望校に対応 ②年12回開催 ③3件以上 ④72%以上	①希望校に対応 ②年12回開催 ③3件 ④96%		B B B A
		21	利用者・地域住民などととともに「大倉山記念館利用ルール」を策定し、広く告知するとともに、遵守を徹底	●関係団体との連携による文化財の保護 ①修繕を実施する際は、横浜市歴史資産調査会(ヨコハマヘリテージ)監修のもと、その内容について可能な限り情報を開示 ②当グループが管理運営する他の文化財施設や全国の文化財施設との連携を深め、情報共有・情報交換を行う	①実施 ②実施	①実施 ②実施		B B
		22	地域のシンボルとして、メディアの撮影や、一般向けウエディングロケ地として活用し、施設と地域のイメージアップに貢献する	●撮影・ロケの積極的な誘致 ①メディア撮影・ロケへの協力・撮影協力 ②協力会社やロケ地コーディネート会社への積極的な情報の開示 ③ウエディングフォトロケーションとしての活用・撮影協力	①年間35件 ②実施 ③年間2件	①年間27件 ②実施 ③年間1件		C B C
		23	地域住民・連携先とともに公園と地域のにぎわいを演出	●大倉山記念館 花めぐり ①年1回以上開催(3月) ②WEBサイトやSNS等での自主的な発信 ③参加者アンケート「大変満足」と「満足」の合計	①年1回以上開催 ②3件以上 ③72%以上	①年1回開催 ②3件 ③100%		B B A

平成28年度 大倉山記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

24	当施設だけでなく、地域全体の保存と活用を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●今昔建築講座 <ol style="list-style-type: none"> ①年2回以上開催(6月～) ②WEBサイトやSNS等での自主的な発信 ③参加者アンケート「大変満足」と「満足」の合計 	①年2回以上開催 ②3件以上 ③72%以上	①年2回開催 ②3件 ③100%	B B A		・館内見学においてはこれまでも行っている塔屋ツアーを積極的に行うようにしていきたい。	
25	マルチチャンネル、多言語の広報を展開	<ul style="list-style-type: none"> ●施設紹介パンフレットの作成および情報発信 <ol style="list-style-type: none"> ①現状のパンフレットを参考に、当施設のパンフレットを刷新 ②パンフレットは館内で配布するほか、WEBサイトからのダウンロードも可能とする ③重要な箇所は、英語等の多言語での記載も検討 ●チラシの作成と新聞折込 <ol style="list-style-type: none"> ①催事や地域の季節の情報をお伝えするチラシを制作 ②チラシは、館内・商店街・最寄駅・近隣施設等で配布:年4回発行 ③新聞折込:年4回以上 	①実施 ②実施 ③実施 ①実施 ②年4回発行 ③年4回以上	①実施 ②実施 ③実施 ①実施 ②年12回発行 ③年5回	B B B B A A		【成果】 ・WEBサイトを刷新し、併せて解説したSNS(Facebook)で、旬の情報を配信した。 ・紙媒体として、施設利用案内のパンフレット1種、大倉山記念館の建築紹介のパンフレット1種(大倉精神文化研究所と共著・共用)を作成し、配布を開始・活用した。建築紹介については、これまで1つにまとまった資料がなかったため、利用者のみなさまから好評であり、早いペースでお配りしている。 ・タウンニュースやASA大倉山など、地域の広報媒体(紙媒体、並びにWeb)との連携を構築した。	【評価できる点】 ・WEBサイトの刷新や、SNS(Facebook)を開設するなど、広報・PR面での取り組みを積極的に行っています。 ・地元情報誌への積極的な掲載を行っています。
26	サークルラウンジの設置	<ul style="list-style-type: none"> ●情報コーナーの設置 <ol style="list-style-type: none"> ①当施設の毎月の催事情報を掲示・配布。 ②周辺施設の文化事業の情報を収集し、掲示・配布 ③情報コーナーではサークルラウンジの開設 	①実施 ②実施 ③実施	①実施 ②実施 ③実施	B B B		・記念館に送付いただくチラシの内容を整理・精査し、周辺施設の文化事業の情報をより分かりやすく掲示・配布した。	【課題】 ・事業に応じた広域の広報を検討する。例えば、オープンデイなど文化財としての建物を紹介する機会には、より広域に周知する。
27	大倉山コンシェルジュの配置	<ul style="list-style-type: none"> ●大倉山コンシェルジュによる情報提供 <ol style="list-style-type: none"> ①地域の情報に精通したスタッフの育成とお客様対応を実施。 ②地域や近隣学校の行事、集まりに積極的に参加・協働。 ③「まちの情報ステーション」として地域の情報を収集・発信。口通年(5月～) 	①実施 ②実施 ③通年実施	①実施 ②実施 ③通年実施	B B B		・今年度は、コンシェルジュの設置を、例えば毎週〇曜日、という定着化ができず、来館が多く見こまれる事業に合わせた対応とした。次年度は、コンシェルジュによる情報提供を定期的実施、定着化をはかる。	【改善が必要と考えられる点】 ・ソーシャルメディアを活用した情報の発信について、日常的な情報発信が読者の好奇心や親近感を得られると考えます。積極的な情報発信、発信頻度の増加に期待します。
28	全国の店舗と自社WEBサイトで広範囲の広報展開を行う	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者の利便性向上に向けての取組 <ol style="list-style-type: none"> (1)①新規WEBサイトの作成 (2)さまざまな利用者への配慮 <ol style="list-style-type: none"> ②ピアノやラジカセットなどの有料貸出や車いす、机やイスの無料貸出 ③多言語での館内案内表示・アンケート実施など、外国人利用者へ配慮した取り組み (3)利用者のご意見を伺う仕組み作り ④館内の目に付きやすい場所に意見箱を設置 ⑤利用者アンケートを実施 ⑥大倉山ミーティングを開催 <ul style="list-style-type: none"> ●広報よこはま等へ掲載依頼および当グループの広報連携の取組 <ol style="list-style-type: none"> ①「広報よこはま」や港北区区民活動支援センター発行の「楽・遊・学」および地域フリーペーパー等の積極的な掲載依頼を実施 ②当グループのWEBサイトへのリンクや広報室を活用したプレスリリースによる広域の広報PRを実施 	①実施 ②実施 ③実施 ④実施 ⑤実施 ⑥実施	①実施 ②実施 ③実施 ④実施 ⑤実施 ⑥実施	B B B B B B	・「タウンニュース」「ばど」への積極的な掲載の他、「イツコム情報誌」「地域創造レター」「住マイルCafémagazine」などの地域誌への掲載を実施した	・初年度の事業、周辺情報について、必要性を吟味し周知した結果、左記の発信頻度となった	
29	SNSやARなどのICTを活用した積極的なプロモーションを展開	<ul style="list-style-type: none"> ●ソーシャルメディアを活用した情報発信 <ul style="list-style-type: none"> □Facebookでの情報発信 	1回/2日以上	1回/4日	C			
30	地域や各団体と連携した広報を実施	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関等との連携によるPR活動 <ol style="list-style-type: none"> ①港北区区民活動支援センターでのPR活動 ②港北ボランティアガイドとの連携による見学ツアーを定期的実施 ③区民活動支援センターにおける利用案内体制の強化 ④港北国際交流ラウンジとの連携強化によるPR活動 	①実施 ②実施 ③実施 ④実施	①実施 ②実施 ③実施 ④実施	B B B B			
31	市民が行う文化芸術活動に対する情報提供や専門家の紹介などを支援	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の文化活動団体へ支援 <ol style="list-style-type: none"> ①既存共催事業各団体との話し合いの上事業を実施 ②現状における課題や要望の解決や改善に尽力し事業の発展に貢献 ③地域の文化活動に関する情報収集 ④施設内情報コーナーを設置し地域の文化活動のパンフレットを配布 ⑤地域の文化活動団体の紹介コーナーで会員を募集 ⑥既存団体の中から希望する活動に敵視だ団体を紹介 	①実施 ②実施 ③実施 ④実施 ⑤実施 ⑥実施	①実施 ②実施 ③実施 ④実施 ⑤実施 ⑥実施	B B B B B B			
32	各種ガイドラインを遵守	<ul style="list-style-type: none"> ●WEBサイトの新規作成 <ol style="list-style-type: none"> ①横浜市インターネット情報受発信ガイドラインを遵守し、新規WEBサイトを作成。 ②催しの情報や年度事業計画書・報告書をWEBサイトに掲載 ③施設の貸出状況、次回抽選日、各室の稼働状況をWEBサイトに掲載 	①実施 ②実施 ③実施	①実施 ②実施 ③実施	B B B			
33	施設の歴史、見どころをわかりやすく伝え、知識と教養の向上に応える	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史的建造物への興味喚起に向けての取組 <ol style="list-style-type: none"> (1)配布用チラシ制作 <ul style="list-style-type: none"> ■大倉山精神文化研究所や横浜歴史資産調査会(ヨコハマヘリテージ)と連携し、配布用チラシを常備し、一般見学者や総合学習授業で来館する小・中学生に配布 	実施	実施	B			

4 広報・プロモーション活動、情報提供します。

平成28年度 大倉山記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
1 文化活動等への施設の提供(貸出業務への取組)を促進します。	市民・利用者の利便性と公平性、施設の維持に配慮し、関係者とともに策定する利用ルールの徹底で、どなたにもわかりやすく、いつまでも快適な施設利用を実現	(1)開館について ■開館日数347日、開館時間:9時~22時 休館日:計18日(施設点検:12日、年末年始:6日) (2)利用料金について ■料金表による運用 (3)利用者本位の貸出し業務の遂行 ■ご要望やご意見および対応内容の館内等への表示 ■ご要望やご意見の全スタッフの共有 (4)駐車場の運営 ■安全に充分注意し、希望者ができるだけ駐車場を利用できるよう臨機応変に対応 ■利用ルールの告知 (5)全スタッフの統一された高レベルの巡回点検 ■毎日、開閉館時にチェックシートを用いて、駐車場内の巡回点検を実施 □日常巡回点検の実施	(1)実施 (2)実施 (3)実施 (4)実施 (5)2回/日以上	(1)実施 (2)実施 (3)実施 (4)実施 (5)2回/日		【成果】 ・既存の駐車場の運営ルールについて精査し、駐車場をご希望の利用者のみなさまに、公平にご利用していただけるよう配慮した。 ・ホール控室専用であった第2集会室をどなたでもご利用いただけるよう開放した。 ・新規利用者が継続して施設を利用しやすいよう、ご案内を徹底した。 【課題】 ・目標率の達成を目指す。	【評価できる点】 ・従来までホール控室専用としていた第2集会室を単独室場とし、ホールの控室だけでなく、通常の集会室として貸し出しを始めるなど、利用の幅を広げ、利用率の向上が図られています。 【改善が必要と考えられる点】 ・ホールやギャラリーについては、安定して高い利用率ですが、目標を下回っていますので、第8集会室など、利用率の低い室場も合わせて、利用率向上に向けた取組に期待します。
	目標利用率(5年平均) ホール90%、ギャラリー99%、第1集会室78%、第2集会室90%、第3集会室63%、第4集会室71%、第5集会室79%、第6集会室62%、第7集会室76%、第8集会室58%、第9集会室71%、第10集会室84%	(6)各部屋の目標利用率について □平成28年度目標利用率 ホール 88%/ギャラリー 99%/第1会議室 73%/第2会議室 87%/第3会議室 61%/第4会議室 70%/第5会議室 77%/第6会議室 61%/第7会議室 75%/第8会議室 54%/第9会議室 68%/第10会議室 82%	ホール :88% ギャラリー :99% 第1会議室:73% 第2会議室:87% 第3会議室:61% 第4会議室:70% 第5会議室:77% 第6会議室:61% 第7会議室:75% 第8会議室:54% 第9会議室:68% 第10会議室:82%	ホール :77% ギャラリー :73% 第1会議室:77% 第2会議室:61% 第3会議室:61% 第4会議室:73% 第5会議室:75% 第6会議室:62% 第7会議室:77% 第8会議室:52% 第9会議室:73% 第10会議室:83%		・全12室中目標率のクリアが7会場となっているため、ホール予約利用者へ控室としての第2集会室の利用促進提案、第10集会室利用者へ隣接する第8集会室への利用促進提案を励行していく ・ギャラリー未使用時のオープンギャラリーでの見せ方を促進	
2 利用促進・利用者サービスの向上及びアイデア・ノウハウの一層の活用を図ります。	公益性・公共性・利用者満足度の高いアイデア・ノウハウを積極的に提案し、施設や地域のファンを増やし、リピーター化を進める	(1)花とみどりによる清潔で潤いある環境を演出 ①施設入口に季節の花の寄せ植えやコンテナガーデンを設置 ②集会室や館内共有スペースに観葉植物を配置 ③トイレには生花や鉢物を配置し、環境美化に寄与 ④夏場には、館外にグリーンカーテンを設置し、利用者や地域住民に環境保全啓発を実施	①実施 ②実施 ③実施 ④実施	①実施 ②実施 ③実施 ④実施		【成果】 ・ロビーに観葉植物を常設した他、館内に四季折々の花を設置し、年間を通じて、潤いと季節感を演出した。 ・夏場の花のグリーンカーテンを設置し、積極的にSNSで発信し、環境保全啓発へ繋げた。	【評価できる点】 ・ロビーやトイレなどに観葉植物や花を飾るなどして、施設的环境美化に努めています。 【改善が必要と考えられる点】 ・本施設はバリアフリー対応ができない施設ですが、車いす対応について、引き続き、現状に則した現実的な対応の実施を期待します。
	苦情発生・要望への対応	(1)利用者ニーズに応じたさまざまなサービスの導入 ①アンケート調査・利用者懇談会などの利用者のニーズに迅速に対応して、運営にフィードバック ②各室利用者や事業共催者へ事前予約によるお弁当販売の実施を検討 ③各種貸出しグッズの提供や車いす、ベビーカーの無料貸出 ④館内に設置した授乳室をより快適で使いやすい環境に見直す ⑤催事開催時に子どもの預かりを行い、母親が安心して催事に参加できるサービスを検討 ⑥館内ベンチの増設を検討 ⑦施設のパンフレットや館内案内の多言語による表示を検討 ⑧英語等を話せる講師による催事を実施し、外国人も参加できるようにする ⑨地域の各種情報を発信する「まちの情報ステーション」としての役割を担う ⑩館内に災害時対応機能付きの自動販売機を設置	①実施 ②実施 ③実施 ④実施 ⑤実施 ⑥実施 ⑦実施 ⑧年1回以上 ⑨実施 ⑩実施	①実施 ②実施 ③未実施 ④実施 ⑤実施 ⑥実施 ⑦実施 ⑧年1回 ⑨実施 ⑩実施		・アンケート、窓口でのお問い合わせを受け、可否を協議し、運営上のサービス向上へと繋げた。 ・災害時対応機能自販機設置及び授乳室の快適性は即時実施、グッズ関連は車いす、ベビーカーは要検討中 【課題】 ・利用者サービスの明文化と周知を引き続き行う。 ・多言語案内について、観光施設ではなく市民利用施設としての在り方を模索・検討する。	・外国人が参加できる催事について、ニーズの把握と実現性の有無、ソーシャルメディアの活用など広告活動のさらなる実施を期待します。
3 組織的な施設運営(職員の確保、配置及び育成)をします。	施設の特性を熟知したスタッフによる安全・安心・快適を最優先に考えた運営組織を構築し、施設の顔として、利用者や地域住民・市民に最高の「おもてなし」を提供	(1)人材の配置について (2)勤務体制について (3)スタッフ研修 ①運営開始前および運営開始後の定期的かつ計画的な研修を実施 ■1年目は、接客接客や利用受付、緊急時対応等の基本的な内容の習得を目標とする ②運営開始前研修:1回 ③基礎研修:年2回 (4)スタッフミーティングの開催 ④各種ミーティングを開催し、情報共有およびチームワークを醸成 朝礼・全体会議等、定期的なミーティングを開催	9名で運営 計画実施 ①実施 ②1回実施 ③年2回実施 ④実施	9名で運営 計画実施 ①実施 ②1回実施 ③年2回実施 ④実施		【成果】 ・研修を通じて、スタッフそれぞれが考えるおもてなしを明確化し、実践した。 ・精神文化研究所との協力により、パンフレットの制作、事業の実施(オープンデイ)など、いくつかのアウトプットに繋がった他、次年度のさらなる計画へと繋がった。	【評価できる点】 ・スタッフが館外の清掃や、花壇の手入れなどを積極的にを行い、近隣住民の方に声を掛けるなど、コミュニケーションの向上に取り組んでいます。 【改善が必要と考えられる点】 ・近隣住民や関係団体との、より一層の連携強化やコミュニケーションの向上を期待します。
	利用者や市民へ質の高いサービスを提供できる人材育成を行い、「顔の見える運営」を実践	(5)地域住民、地域の各種団体、関係機関等との連携体制の確立 ①地域住民へのお声かけなど、スタッフから積極的にコミュニケーションを図る ②ゴミ拾いや花植え活動など、明るく見通しの良い環境づくりに努める (6)大倉山精神文化研究所との連携強化 ③日頃からスタッフ同士の積極的なコミュニケーションを図るための連絡調整会の開催 (7)地域の各種団体等との連携強化 ④大倉山地区連合町会や大倉山まちづくり実行委員会への加入を検討⇒町内会や地域の集会への参加 (8)官民協議体制の確立 ⑤連絡体制の強化	①実施 ②実施 ③月1回 ④年4回 ⑤実施	①実施 ②実施 ③月1回 ④年4回 ⑤実施		・大倉山記念館の文化的価値の普及を目的とした、精神文化研究所との事業連携を強化、実施する。 ・地域の活動を知る機会を増やし、連携を強化する。	

平成28年度 大倉山記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

4 本市の重要施策を踏まえた取組をします。	7 個人情報の適正な取り扱い	(1)個人情報保護への取組 ①代表団体が取得している、(財)日本情報処理開発協会(JIPDEC)の「プライバシーマーク」認証に準拠した個人情報保護に努める ②グループ内の個人情報保護窓口の管理のもと、法令遵守と情報の漏洩や不正アクセスなどによるデータ破損・盗難・改ざんなどのリスクを十分に理解した上で、取扱い方法・漏洩防止策を構築し、大倉山記念館の個人情報保護管理体制を構築 ③個人情報のリスク調査、管理台帳の作成、リスクチェックシートの作成を実施 ④全スタッフに対する個人情報保護研修および試験の実施	①実施 ②実施 ③実施 ④年1回	①実施 ②実施 ③実施 ④年1回	B B B B	【成果】 ・個人情報保護研修を実施し、個人情報の取り扱いの考え方を周知した。 ・実施事業における委託に関し、既存事業者を選定、新規の場合は市内事業者を選定し、協力関係を構築した。 ・花の種の配布、苗の育成、グリーンカーテンの育成など、花と緑を通じた環境配慮を実施した。 【課題】 ・大倉山記念館の利用者サービスにおける個人情報の取り扱いの流れを整理し、より正確な個人情報保護に取り組む。	【評価できる点】 ・大倉山公園を管理する北部公園緑地事務所と連携し、地元の小学生と公園愛護会による花植え活動を行い、環境学習の機会を提供しています。 【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き、個人情報の管理の徹底を期待します。
	8 適正な情報公開	(2)迅速で適切な情報公開 ①情報の公開にあたっては、市の情報公開条例を基本とした「情報公開規定」を策定し、適切な情報公開体制を確立 ②施設の管理運営に関する情報は、市民(利用者)からの請求(問い合わせ)があった時だけでなく、積極的に自主的な情報提供を行う	①実施 ②実施	①実施 ②実施	B B		
	9 人権の尊重	(3)人権尊重の取組 ①スタッフの採用にあたっては、男女の区別なく、適材適所の人材登用を進める ②障がい者雇用の促進を図るとともに、授産施設からの物品購入をはじめ、障がい者との共生に積極的に取り組む ③すべてのスタッフに対し、業務基本研修、人権研修等を実施 ④人権研修:年1回	①実施 ②実施 ③実施 ④年1回	①実施 ②実施 ③実施 ④年1回	B B B B		
	10 環境への配慮	(4)環境への配慮 ①環境に配慮し、廃棄物発生抑制に努める ②「市役所ごみゼロ」「横浜市脱温暖化行動指針」「エコハマ3R」等市の施策や事業に協力する ③花苗の植え付けやグリーンカーテンの設置などを通じて、子どもたちをはじめ市民に環境学習機会を提供し、環境意識の啓発に努める	①実施 ②実施 ③実施	①実施 ②実施 ③実施	B B B		
	11 市内中小企業への優先発注	(5)市内中小企業振興の取組 ■横浜市中小企業振興基本条例に基づき、資材・消耗品等の購入や設備機器管理、定期点検等の委託業務は、市内中小企業等へ優先的に発注を行い、地域企業の育成に貢献する	実施	実施	B		

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
1 施設及び設備の維持保全及び管理をします。	経験と実績を活かした的確な日常管理 高い専門性を有する市内事業者による定期・法令点検の徹底 どなたにも安全・安心で快適な空間を提供	(1)安全・安心できる施設の維持 ■①「業務の基準」の設備等保守管理項目を遵守し、日常的・定期的な施設点検を実施。必要に応じて緊急点検を実施 ■施設・設備維持管理の専門スタッフを配置 ②定期的な施設点検 ③建築物点検マニュアル及び建築物定期報告に準拠した点検 (2)中長期視点での施設・設備の維持管理計画の立案 ■①引継ぎ期間中に構成団体および市内の専門事業者が施設・設備を点検し、中長期視点での施設・設備の維持・保全計画を立案する ■引継ぎ期間中に、修繕履歴から現状と課題の把握、部品調達先の確認する ②中長期計画の策定 (3)快適で安心できる環境の維持 ①「業務の基準」の清掃項目一覧及び清掃内容一覧を遵守し、チェックリストを作成し、日常・定期清掃を実施 ②構成団体の専門家による日常点検チェックリストを作成し、日々、スタッフが巡回点検 (4)樹木・公園設備等の点検管理 ①代表団体のグループ会社に所属する樹木医や造園施工管理技能士による植物の点検と日常手入れの助言を実施 ②樹木診断:年1回 ③「業務の基準」の公園管理項目一覧を遵守 ④北部公園緑地事務所との連携	①実施 ②月1回 ③年1回	①実施 ②月1回 ③年1回		【成果】 ・点検チェックリストを作成し日常の点検に使用出来た ・引継ぎ時に維持・保全計画体制を構築することが出来た ・清掃点検においてはダブルチェック体制を徹底して行い、美化に努めた ・第6集会室改修工事に伴い外部機関に委託し空気環境測定を行った ・記念館周りの落葉清掃においては北部公園事務所と打ち合わせを行い処理できた、また、週末(土)、(日)において公園内の池に不法投棄があった時もゴミ処理を当館スタッフにて行い、報告している 【課題】 ・週末(土)、(日)における公園内の落とし物の処理、池の中への不法投棄においてはそれぞれ当館スタッフにて対応し、北部宿直担当者へ報告した。 ・年一回の自主点検のほか次年度においては一級建築士による建築物点検を計画し、事前の施設維持に努めていく ・月一回の休館日においては維持管理の観点より計画通りに項目別に維持管理を行う上で、計画以上に細かく終日かけて行うことの認識を協議していく ・樹木医の樹木診断は初年度は1回であったが、次年度からは2回以上行うことを協議していく(複数の樹木が多いため)	【評価できる点】 ・土・日曜日などの公園管理者が不在時の緊急時対応を行う体制が整えられています。 【改善が必要と考えられる点】 ・管理区域内の樹木の管理や外周部の管理について、大倉山公園を管理する北部公園緑地事務所とのより一層の連携の強化を期待します。
			④①実施 ④②実施 ④③実施 ④④実施	④①実施 ④②実施 ④③実施 ④④実施	B B B B		
			④①実施 ④②実施 ④③実施 ④④実施	④①実施 ④②実施 ④③実施 ④④実施	B B B B		
2 小破修繕への取組を行います。	市の指定有形文化財であることを十分に理解し、横浜市文化財保護条例を遵守 予防保全に努め小破修繕を実施し、施設の長寿命化と経費削減を両立	(1)施設・設備の予防保全 ①過去の修繕履歴をしっかりと引継ぐ ②現状の把握、問題箇所の抽出、材料・部品等の調達先(メーカー等)の確立を行う (2)中長期視点での施設・設備の修繕計画の立案 ①引継ぎ期間中に構成団体および市内の専門事業者が施設・設備を点検し、中長期視点での施設・設備の修繕計画を立案 ②中長期修繕計画の策定:年1回	①実施 ②実施	①実施 ②実施		【成果】 引継ぎ時に修繕記録を受領し過去の修繕履歴等で調べ、調達先を確認し、予備品の確保に役立てられました 【課題】 修繕記録からの調べにてストックの確保も生産中止部品も多く、代替え部品対応も多いため、スタッフ間にて早めの報告を密にとっていく	【評価できる点】 ・修繕履歴や現物を調査し、予備品のストックや調達先を事前に把握しておくことで、突発的な不具合の発生や故障などに対する早期対応の体制が整っています。 【改善が必要と考えられる点】 ・突発的な不具合を発生させないよう、的確な点検から修繕の必要性を見極め、タイムリーな予防処置ができることを期待します。
			①実施 ②年1回	①実施 ②年1回	B B		

平成28年度 大倉山記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

<p>3 事故防止体制・緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理を徹底します。</p>	<p>6 「利用者・地域住民の安全・安心」を第一に考えた予防的対策と緊急時対応体制の整備を実施</p>	<p>(1)「利用者・地域住民の安全・安心」を第一に考えた予防的対策 ①事故などの原因となる現象や状況(ハザード)をまとめた、ハザードマップを作成 ②防犯カメラの設置箇所について、適宜見直しを行う ③「港北AAA防犯情報メール」への登録 ④救急セットやAEDの配置及び保守運用を徹底 ⑤事象別のマニュアルの作成と研修や訓練による急病人への適切な対応 ⑥全スタッフの普通救命講習の受講 ⑦急な天候の崩れや光化学スモッグの発生などを施設やWEBサイトで告知 ⑧犯罪の起こりにくい施設環境を調査未然防止に努める ⑨消毒液を設置しインフルエンザ・ノロウイルス対策を徹底 ⑩トイレに手洗い方法の説明を掲示 ⑪手洗い方法の英語表記 ⑫外部委託スタッフを含む全スタッフへの研修および勉強会:年2回 (2)利用料金の確実な管理 ⑬事務所に、警備会社が提供する入金機を設置 (3)利用者の安全・安心の確保 ⑭スタッフによる定時巡回を実施 ⑮スタッフ不在となる時間帯は機械警備を行い、24時間の警備体制を構築 ⑯危険箇所の抽出を行いハザードマップを作成 ⑰ハザードマップによる日々の巡回を行う (4)全スタッフの統一された高レベルの巡回点検 ⑱毎日、閉館時にハザードマップを基に作成したチェックシートを用いて、施設内の巡回点検 ⑲日常巡回点検</p>	<p>①実施 ②実施 ③実施 ④実施 ⑤実施 ⑥実施 ⑦実施 ⑧実施 ⑨実施 ⑩実施 ⑪実施 ⑫2回実施 ⑬実施 ⑭実施 ⑮実施 ⑯実施 ⑰実施 ⑱実施 ⑲1日2回以上</p>	<p>①実施 ②実施 ③実施 ④実施 ⑤実施 ⑥未実施 ⑦実施 ⑧実施 ⑨実施 ⑩実施 ⑪実施 ⑫2回実施 ⑬実施 ⑭実施 ⑮実施 ⑯実施 ⑰実施 ⑱1日2回実施</p>	<p>B B B B B C B B B B B B B B B B B B</p>		<p>【成果】 ・ハザードマップの作成により、予防対策は出来、防犯カメラ利用も初年度は設置場所は継続してきた ・衛生面においては館内2ヶ所に消毒液の設置により、利用者の意識を高めた、また研修及び勉強会は消防関連と同日に2回行い、意識向上も得られた ・現金管理においては入金機への入金により管理を照って出来、閉館時(22:00以降)は機械警備により管理出来た 【課題】 ・ハザードマップを作成し、警備の確認もチェックシートにて確認するのもスタッフ各自が行うことなので、常に『ヒヤリ・ハット』の気持ちを全員にて共有するミーティングを持ち館独自の連絡帳にて記載し、その日出勤してない人員への報告を徹底することを継続的に行うことを全員で行う</p>	<p>【評価できる点】 ・日常巡回点検回数を目標よりも増やし、事故の予防、防犯に努めています。 【改善が必要と考えられる点】 ・ハザードマップに加え、災害時の役割分担や行動基準の作成等、さらなる危機管理体制の構築を期待します。</p>
<p>4 防災に対する取組を実施します。</p>	<p>7 情報の一元管理と市・本部との情報共有体制の構築および、緊急時の速やかな対応と施設被害の最小化、迅速な利用再開への対応</p>	<p>(1)緊急時対応体制の構築とマニュアルの整備 ①防火管理者を配置 ②防火計画書を作成し、消防署へ提出 ③横浜市防災計画に基づく対応マニュアルと連絡網を整備 ④連絡網は、市・区に提出 ⑤各関連機関の電話番号を事務所電話の短縮に登録・掲示 ⑥マニュアルと連絡網は、携帯用冊子にし、スタッフは常に携帯 ⑦大規模災害等が発生した場合は、行政機関と協力し、迅速な利用再開に努める</p>	<p>①実施 ②実施 ③実施 ④実施 ⑤実施 ⑥実施 ⑦実施</p>	<p>①実施 ②実施 ③実施 ④実施 ⑤実施 ⑥実施 ⑦実施</p>	<p>B B B B B B B</p>		<p>【成果】 ・マニュアル・計画書・連絡網を作り行政各所に提出出来た 【課題】 ・上記マニュアル・計画書・連絡網の作成のみならず、その活用においてスタッフ全員で共有化していく ・防災の観点からも休館日を利用しての消防訓練・防災訓練を2回実施して非常時に備える心がけを養う</p>	<p>【評価できる点】 ・消防訓練、防災訓練を繰り返し実施することにより、マニュアルや計画書の振り返りの機会を設ける等、PDCAによる取組ができています。 【改善が必要と考えられる点】 ・施設職員のさらなる防災意識の向上を期待します。</p>
	<p>8 積極的な人道的措置の実施、自発的な防災備蓄整備や地域と連携した共同防災体制の構築</p>	<p>(2)日常における防災対策の実施 ①防災・防火訓練を実施 消防・防火・防災訓練:年2回 ②災害用備蓄品を準備するとともに、リストを作って管理し、定期的に確認、備蓄を更新</p>	<p>①年2回実施 ②実施</p>	<p>①年2回実施 ②実施</p>	<p>B B</p>			
	<p>9 利用者の安全確保を最優先に考えた対応</p>	<p>(3)緊急時のためのスタッフ確保 ①緊急時に迅速な現場対応ができるよう、近隣在住スタッフを確保 ②利用者へ、避難導線をお伝えし、避難場所の指導 ③訓練により判明した課題をマニュアルに反映</p>	<p>①実施 ②実施 ③実施</p>	<p>①実施 ②実施 ③実施</p>	<p>B B B</p>			
<p>5 その他管理に関する事項</p>	<p>10 電気主任技術者による適切な設備管理</p>	<p>(1)当グループの電気主任技術者による維持管理 ①自家用電気工作物の保安、監督を実施 ②施設・設備維持管理の専門スタッフを配置 ③自家用電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安監督業務を適正・的確に行う ④自家用電気工作物が、人体に危害を及ぼしたり物件に損傷を与えたりしないよう維持</p>	<p>①実施 ②実施 ③実施 ④実施</p>	<p>①実施 ②実施 ③実施 ④実施</p>	<p>B B B B</p>		<p>【成果】 ・関東電気保安協会と契約し自家用電気工作物の保安・監督の委託を行えた ・電気工事士の有資格者を配置出来た 【課題】 ・上記取得者による小まめな日常点検を励行していく</p>	<p>【評価できる点】 ・計画通り実施できています。 【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き、有資格者による法定点検、施設スタッフによる日常点検による、維持管理を期待します。</p>

平成28年度 大倉山記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画			実施状況		評価	
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価	
1 指定管理料にのみ依存しない収入構造を構築します。	1 初年度は、現行料金を維持。他施設の状況調査および利用者の声を聴き、2年目以降の料金設定を検討	(1) 安定した利用料金収入の確保 ①貸出情報をWEBサイトやSNSで発信し、稼働率の向上を図る ②定期的に利用者の声を聞き、その内容を可能な限り運営に反映 ③利用者と連携し、CDや自作のアート作品を販売する「物販」も積極的に実施	①実施 ②実施 ③実施	①実施 ②実施 ③未実施	B B C	③指定管理者として初年度はボランティアの方々での販売にとどめた。	【成果】 ・積極的なWEBサイトの活用により新規ご利用者の発掘が出来た ・ご利用者のご意見は出来ることはすぐに対応した ・一度利用された方が再度利用いただく、または、新しい利用者を紹介いただくなど、利用促進につなげることができた 【課題】 ・ロケ・撮影に関しては計画件数は未達成であったが、次年度以降に継続的に行える案件も調整出来てきている 記念館にての人的式としての利用(本年10月予定)、個人撮影ウエディング、着物、記念写真としての使用等件数増寄与できる案内告知を推奨していく	【評価できる点】 ・WEBサイトによる広報活動や、SNSを活用した情報発信により、新規利用者を増加させるなど、新しい手法による取組が図られています。 【改善が必要と考えられる点】 ・撮影利用の拡大について、より一層積極的なPR活動及びサービス向上によりリピーターを確保し、撮影件数の向上を期待します。
	2 稼働率の向上と安定した収入確保を目指す	(2) ロケ・撮影利用の拡大 ■積極的な広報PRで、ロケや撮影の利用を増やし、収入確保につなげる ①メディア撮影・ロケ撮影協力 ②フォトロケーション撮影協力	①年間35件 ②年間2件	①年間27件 ②年間1件	C C			
2 経費削減等効率的な運営に努力します。	3 スタッフの効率的な運営によるコスト削減と施設の魅力や価値の広い発信による利用促進で収入増を図る	(1) 効率的・効果的な維持管理運営によるコスト削減 ①マルチジョブシステムを採用し、スタッフの効果的な配置と効率的な運用により、コスト削減に寄与 ②スタッフの定期巡回により、節電や空調管理を徹底 ③エネルギー管理を強化し、次年度以降の目標策定に役立てる	①実施 ②実施 ③実施	①実施 ②実施 ③実施	B B B	【成果】 ・スタッフ各自の意識向上とご利用者様の協力の下削減できた(節電・節水) 【課題】 ・節電においては電力自由化に伴い、適宜見積もり依頼により電力会社の選定に努めていく ・スタッフ及びご利用者様のご理解の上、継続的に推進していく	【評価できる点】 ・照明スイッチのこまめな入り切りなど、日常的な管理による経費削減の取組に加え、施設の保全管理面でLED電球への転換など、ソフト及びハードの両面から取り組んでいます。 【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き日常管理による経費削減を期待するとともに、新しい手法での経費削減の取組に期待します。	
	4 効率的な施設運営による経費削減策の実施	(2) 光熱水費の削減努力 ①日々の節電・節水・空調温度設定管理、可能であれば設備運転時間の変更を実施 ②設備の改善・修繕などの設備投資型省エネルギー対策(省エネルギー機器を更新導入)を可能な範囲で徐々に取り入れ、さらなる使用削減・コスト削減を目指す ③施設スタッフはもちろん、各室やトイレにも節電や節水への協力を依頼する案内等を掲示し、利用者にも呼び掛ける	①実施 ②実施 ③実施	①実施 ②実施 ③実施	B B B			

評価項目		H28年度計画			実施状況		評価	
V PDCAサイクルの確実な運用	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価	
PDCAサイクルの確実な運用	1 日報及び月報の作成・管理	(1) 業務記録の整備 ①市と協議の上、日報および月報のフォーマットを作成、業務の記録と管理を適正に行う (2) 業務内容の報告と共有 ②緊急を要するもの、重要な件は迅速に市に報告 ③日々の業務内容は本部サポート部隊も内容を把握、共有	①実施 ②実施 ③実施	①実施 ②実施 ③実施	B B B	【成果】 ・報告業務においては不明な点はその都度確認することを励行 【課題】 ・意見に対しての対応力が迅速でない案件もあるので、どの案件においても都度進捗報告に努めていきたい	【評価できる点】 ・計画通り実施できています。 【改善が必要と考えられる点】 ・特になし。	
	2 業務計画書及び業務報告書の作成・管理	(1) 業務計画書の確実な遂行 ①業務計画書に則り、計画的かつ確実に業務を遂行 ②実施した事業は報告書に記録し、管理 ③業務計画書と業務報告書は適宜、市へ報告 ④本部サポート部隊によるPDCAサイクルの推進 (2) 利用者のニーズや声を反映した事業計画の策定 ⑤利用者の声を聞き取りニーズを反映した事業計画に刷新	①実施 ②実施 ③実施 ④実施 ⑤実施	①実施 ②実施 ③実施 ④実施 ⑤実施	B B B B B			
	3 業務評価(モニタリング、自己評価、第三者による評価の実施)	(1) 利用者や市民のご意見やご要望の集約 ①ご意見箱や利用者アンケート、電話等、いただいたご意見ご要望をデータで一元管理 ②いただいたご意見ご要望や全スタッフと本部サポート部隊が共有 ③いただいたご意見ご要望や市と共有 (2) セルフモニタリングの実施 ④現場スタッフおよび本部サポートによるセルフモニタリングを実施 ⑤セルフモニタリングの内容は市と共有 (3) 執行状況確認会議の実施 ⑥執行状況について現場と本部が確認する「執行状況確認会議」を開催 (4) ご意見やご要望の施設運営への反映 ⑦いただいたご意見やご要望は基準を設け、市と協議の上、施設運営に反映 ⑧反映した内容を広く公表し、その内容についてのモニタリングを実施し、PDCAサイクルが適切に運用する環境を整備	①実施 ②実施 ③実施 ④実施 ⑤実施 ⑥月1回開催 ⑦実施 ⑧実施	①実施 ②実施 ③実施 ④実施 ⑤実施 ⑥月1回開催 ⑦実施 ⑧実施	B B B B B B B B			

平成28年度 大倉山記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画			実施状況		評価	
VI 留意事項	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価	
留意事項	1 保健及び損害補償の取り扱い	(1)施設賠償責任保険への加入 ①利用者が安全・安心に利用できる施設であることを保証 ②事故の発生がないよう努める	①実施 ②実施	①実施 ②実施	B B		【成果】 ・1年間を通じてマニュアルを通じて記念館スタッフが業務遂行できていけるようになりつつある、但しまだ不備的なことも多々あると思う 【課題】 今後においても継続して行える部分と内容変更してよりよいものにしていく、ご利用者様、近隣の皆さまのご意見を考慮して充実した利用対応としていきたい 【評価できる点】 ・計画通り実施できています。 【改善が必要と考えられる点】 ・特になし。	
	2 関係法令などの遵守	(1)適切な許可及び届出等 ①観梅期など多くの来場者が見込まれる期間においては、飲食物の販売などが予想されるため、届け出などを行う ②共催事業も含め、必要となる届出を的確に対処 ③市から目的外使用許可をいただき、利用者と連携し、CDや自作アート作品を販売する「物販」も積極的に実施	①実施 ②実施 ③実施	①実施 ②実施 ③未実施	B B -	横浜市と協議の上、改めて検討していく		
	3 市及び関係機関等との連絡調整	(1)協力・協調関係の構築 ①横浜市文化振興課、地域の市民団体、文化団体、区民活動支援センター、小中高等学校、商店街連合会、各関係機関等と定期的な情報交換を行い、協力・協調関係を築き、信頼関係を深め、地域との連携体制を確立、特に(公財)大倉精神文化研究所及び北部公園緑地事務所とは緊密な関係を築き、施設の運営に支障がないよう努めます ②関係機関の連絡網を整備し、必要に応じて決定事項を伝達する仕組みを構築 ③(公財)大倉精神文化研究所及び北部公園緑地事務所との連絡	①実施 ②実施 ③毎月実施	①実施 ②実施 ③一部実施	B B C	公園側とはその都度行う、精神文化研究所は実施		
	4 その他	(1)近隣対策 ①撮影協力時に、騒音や撮影行為等によって施設利用者や近隣住民に迷惑が及ぶことがないよう努める ②施設外観等を利用する撮影協力の際は、施設利用者及び近隣住民への事前説明を行う ③施設屋外や公園を使ったイベントや事業を行う際には、施設利用者及び近隣住民への事前説明を行う ④大倉山ミーティングにお声がけし、施設に対するご意見やご要望をお伺いする (2)備品のリスト ⑤常に最新リストに更新して管理点検を実施	①実施 ②実施 ③実施 ④実施 ⑤実施	①実施 ②実施 ③実施 ④実施 ⑤実施	B B B B B	内容説明文を事前に投函する		

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
	1					指定管理期間の1年目となる今年度は業務の引継ぎを確実にし、これまでの運営方法や事業内容の理解に努める事を第一として参りました。 また、市の文化施策に賛同するとともに我々のノウハウや実績と利用者の施設に対する思いを謙虚に受け止めてこれまで以上に利用者・市民が文化に親しみコミュニティを活性化させるとともに地域の文化拠点となる施設の土台作り注力致しました。 定量目標の数字において未達成の項目も多く、次年度以降の課題として認識しております。 定性目標においても諸般の事由により変更になり代替え項目を次年度以降変更として参ります。 初年度より改善努力をして2年目目標をクリアすべく館員全員で市民の皆様へ愛される大倉山記念館となれるよう努力して参ります。 今後ともご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。	今年度は指定管理1年目で、前指定管理者から業務の引継ぎを着実にし、大倉山記念館ならではの秋の芸術祭やジョイフルコンサートを始めとした事業や、施設管理等の施設運営が実施できています。 また、施設のプレゼンス向上として撮影等の誘致にも力を入れて、大倉山記念館のプロモーション活動が積極的に行われました。また、指定管理者の強みである花を用いた事業として、フラワーアレンジメント教室等の事業を行うことで、新しい大倉山記念館としての価値の創出にもつながっています。 次年度以降は、今年度実施できなかった項目の確実な実施と、さらにPDCAを回すことでより良い事業の実施を期待します。また、近隣住民や公園管理者との連携を強化することも期待します。